

第4分科会

発達障がいの大学生への 支援の現状と今後の可能性

報告者

- | | |
|---------|----------------------------------|
| 広野 ゆい 氏 | NPO法人DDAC（発達障害をもつ大人の会） 代表 |
| 古川 直子 氏 | 親の会はぐくみ 会員 |
| 渡部 良子 氏 | 滋賀県立精神医療センター 地域生活支援部 社会復帰支援係長 |
| 上床 輝久 氏 | 京都教育大学 保健管理センター 教授 |
| 加藤 郁子 氏 | 滋賀県立精神医療センター 地域生活支援部 主幹（兼）医療連携係長 |
| 窪 貴志 氏 | 株式会社エンカレッジ 代表取締役 |

コーディネーター

- | | |
|---------|---------------------|
| 市川 寛 氏 | 同志社大学 生命医科学部 教授 |
| 須賀 英道 氏 | 龍谷大学短期大学部 社会福祉学科 教授 |

〈第4分科会〉

発達障がいの大学生への支援の現状と今後の可能性

コーディネーター

龍谷大学短期大学部社会福祉学科 教授

須賀 英道

同志社大学生命医科学部学部 教授

市川 寛

○本分科会のねらい

発達障がいのある学生は間違いなく増えている。この発達障がいという分類の大枠は、ASD（自閉スペクトラム症）、ADHD（注意欠如・多動症）、SLD（限局性学習症）のカテゴリーの総称であるが、この分野は、長い間検討されてきた割に医療的にも医学的にも端緒についたばかりである。さらに、近年では発達障がいの概念の拡大とともに医学的視点のウェイトも下がり、生活機能上の支障という条件も変化しつつある。大学保健においても発達障がい者の支援が叫ばれてはいるが、当然基礎的知識無くしては本当の意味の支援とはならない。本分科会では、精神科医でもある龍谷大学の須賀先生を中心に、様々な立場の方々からご意見を伺って、発達障がい学生に対する大学での支援のあり方を皆さんに理解していただける場とすることを目的とした。

○報告の概要

まず、龍谷大学短期大学部 社会福祉学科 教授 須賀英道氏より、本分科会の趣旨説明が行われた。発達障がいの学生への支援の現状と今後の可能性を考えるにあたり、多角的支援を目指す必要性を訴えられ、様々な状況での当事者視点からの支援のネットワーク化が重要であることを強調された。また、発達障がい学生へのサポートにあたり、短所や苦手なことの解決より、自分の特性、強みを活かした生き方（ウェルビーイング思考）が必要であり、本人の自尊心を大切にし、生きていることの喜びと自己成長へとつなげる様な支援が重要であるとされた。

次に講演1では「当事者の視点から」というタイトルで、NPO 法人DDAC（発達障害をもつ大人の会）代表 広野ゆい氏より報告があった。成人になってからの、自らのうつ病、ADHDの診断を受けた経験を交え、成人期の発達障がい者の実情や、発達障がいの方がいる場合の職場環境作りの重要性についてのお話をいただいた。

講演2では、親の会はぐくみ 会員 古川直子氏より「親の視点から」のお話があった。長男の子育ての中で、発達障がいに気づき、早期療育の重要性を実感された経験を交え、親の視点から、障がい受容の多様性を強調された。

「医療介入の視点から」という立場では、講演3として京都教育大学 保健管理センター 教授で、精神科医でもある上床輝久氏より、発達障がい学生支援の現状と学生が直面する課題の説明があった。上床氏からは大学保健センターでの医療的介入も交え、障がい特性に応じた対応の重要性を強調された。同時に、発達障がい学生の支援は1人ではできず、関係者が連携して取り組む必要があると説明された。

また、講演4では、同じ「医療介入の視点から」という立場で、滋賀県立精神医療センター 地域生活支援部 社会復帰支援係 係長 渡部良子氏より報告があった。渡部氏からは、ご自身が取り組まれている「精神医療センターダイケア」での発達障害専門プログラムの紹介と同時に、実際の学生支援の現状を説明された。

講演5として「就労支援の視点から」という観点から、株式会社エンカレッジ 代表取締役 窪貴志氏よりご講演をいただいた。企業の障がい学生雇用に関する10年前と現在との大きな違いを指摘され、発達障がいのある学生の進路が多様化している現状を紹介いただいた。窪氏は、より自分に合った働き方を実現するための進路選択では、それぞれの選択肢に、「いい・悪い」はない、自分の現状に照らし合わせて選択することが重要である、と強調された。

最後に、講演6では、コーディネーターである須賀氏より、「発達障がい者の今後の可能性について」の講演があった。特に「発達障がい者」と「発達障がいをもつ人」との表現の違いを例に挙げ、教育者は指導によって学生の問題点・欠点を解決するのではなく、人を見る立場から、アドバイスによって学生が成長し、問題点・欠点が少なくなっていくことが重要であるとされた。医療者が「症状」をみて「人」をみないのと同様、教育者も「問題・欠点」をみて「人（学生）」をみないことの問題点を批判された。同時に、

須賀氏自身が実践されている参画型の well-being 実践プログラムでは、学生の幸福度の変化を促すことにより、自己否定することなく、目指したいレベルを見据えて自己成長を知ることが重要であるとまとめられた。

○報告に対する質疑ならびに全体討議の内容

今回の分科会では、発達障がいのある大学生への支援にあたり、様々な視点から「発達障がい」を理解していただき、同時に立場の違う立場からご発言いただく機会を得ることができて、非常に有意義なものであったと考える。

活発な質疑のなか、本分科会で印象的だったのは、発達障がいに対する医学的な正しい知識のみならず、卒業後の社会人となる成人期に至るまで、長いスパンでの「発達障がいを持つ人」への支援の必要性が重要であることである。同時に、須賀氏が訴えられたように、発達障がいを持つ人へは、本人が自己否定することなく、目指したいレベルを見据えて自己成長ができるような支援を提供させていただくことが重要であるということも印象的であった。

本分科会は、大学における支援を考えるのみならず、発達障がいを持つ学生の卒業後も見据えた支援の重要性と同時に、教員や職員に限らず、すべての関係者が連携して取り組む必要性があることを最後に確認した。

スライド1

発達障がいのある学生への
支援の現状と今後の可能性
～多角的支援を目指して～

スライド2

発達障がい者における 多角的支援とは

様々な状況での
当事者視点からの
支援(サポート)のネットワーク

今後はこうした
ネットワークをつくることが重要！

スライド3

サポートは 何のためにあるのか？

「誰もが幸せ感をもって人生を全うできる」
ということを感じさせる

そのための、各種・多彩な情報、方法を
人生スパン(出生から成長、成熟、壮年、老年)の
各時期において提供すること

スライド4

発達障がい者においては どのようにサポート？

- ・ 基本は？
短所や苦手なことの解決(問題解決思考)より
自分の特性(強み)を活かした生き方
(ウェルビーイング思考)が必要
- ・ サポーターもこの視点を重視し、
自尊心を大切にし、生きていることの喜びと
自己成長へとつなげる

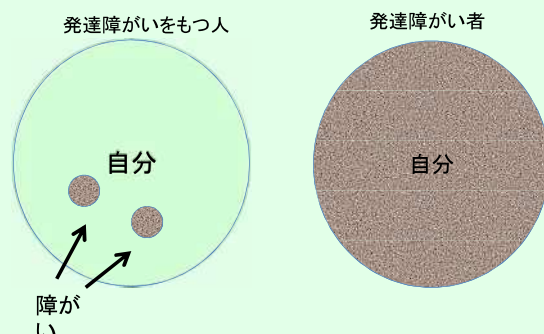
スライド5

この表現は何が違うのか？

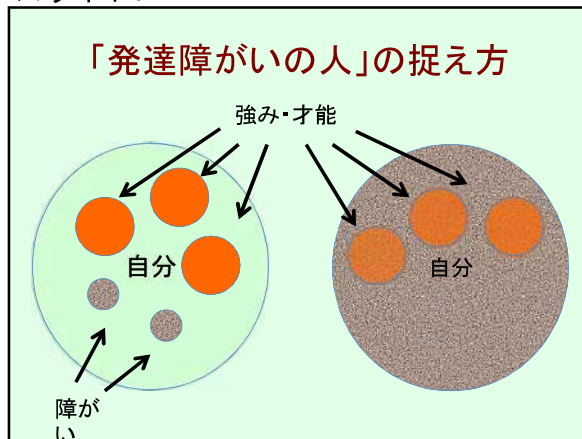
- 1) 発達障がい者
- 2) 発達障がいをもつ人

スライド6

「発達障がいの人」の捉え方



スライド7



スライド8

発達障がい者の人生スパンとは？

一般者のライフステージ
(卒業—就職—結婚—子供—セカンドライフ)とは
ニュアンスは異なる **これが大切！**

幸せ感をもって人生を全うできること

よって、
ライフステージの中間ステップを最終目標とはし
ない 例) 卒業、就職、結婚など

スライド9

サポートの基本

中間ステップをクリアできなくても挫折感をもたず、
別ルートもあることの認識をもたせること
そこにいる自分への自尊心と楽しさをもたせること

生きている自分が好きになれること

スライド10

チーム対応

1対1対応の時代ではない

相談に対して
窓口からネットワークで
適所のサポーターへ

一時期のサポートが過ぎたら必ず、
次への橋渡しができること

スライド1

第30回FD・SDフォーラム 第4分科会
困難を抱える発達障がい学生への対応

当事者の視点から

NPO法人DDAC(発達障害をもつ大人の会)
公認心理師・キャリアコンサルタント・ロゴセラピスト
広野 ゆい

スライド2

発達障害をもつ大人の会-DDACの活動目的

Developmental **D**isorders adult **A**dvanced **C**ommunity

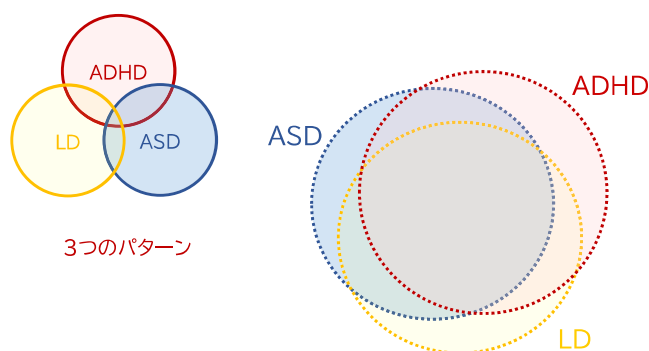


この法人は、発達障害の大人の当事者が社会においてありのままを受け入れられ、その能力を発揮できるようその実態を把握し、医療体制や支援体制の改善を図り、社会認知を広げ、当事者がより良い社会生活をおくることができるよう、就労や生活全般にわたる支援事業を行うとともに、一人ひとりが違いを乗り越え、お互いを認め合える社会をめざし、**当事者が主体となって**活動を行うことを目的とする。(定款第3条)

【主な活動内容】

- 発達障害のセルフヘルプグループの運営および立ち上げ支援
- ピアリーダー研修会の開催
- 講師派遣および啓発のためのイベントの開催
- 当事者・親向けの相談窓口「ハッタツ凸凹相談室」

スライド3



発達凸凹・神経発達症
～とにかく生きづらい人々～

スライド4

神経発達症の種類と頻度

- ・ **自閉スペクトラム症(ASD)** 1・5%～
アスペルガー症候群(AS)・高機能自閉症・広汎性発達障害など
特性: コミュニケーション・社会性の障害、こだわり行動
- ・ **注意欠如・多動症(ADHD)** 4～5%
ADHD(多動型)・ADD(不注意優勢型)
特性: 多動性・衝動性・不注意
- ・ **(限局性)学習症(LD)** 5%～10%
ディスレクシア(読み書き障害)・ディスカリキュリア(算数障害)
特性: 読み書き・計算など、一部だけができない

※人口の約10%～17%の人が発達障がいの特性をもつ
約10人に1人の割合で発生!

スライド5

知的障害・境界知能

知能指数(IQ)で「平均的」「障害」とされる部分の狭間(IQ71以上85未満)にあたるところが「境界知能」と呼ばれています。
日本の人口の約14%、1700万人(7人に一人)に上るとされています。



記憶力、言語力、判断力などの概念的な領域—仕事を覚えること、文字を読むこと、計算することが苦手
他者の立場に立つことや共感すること、人間関係の構築などの社会的な領域—コミュニケーションが苦手
自身の健康管理、金銭管理、仕事などの責任感などの実用的な領域—複雑な指示が理解できない

スライド6

神経発達症と二次障害(併存症)

《精神障害》Mental Disorders

- ・ うつ病、双極性障害 ・ 強迫性障害
- ・ 不安障害、社交不安障害、パニック障害
- ・ 統合失調症 ・ パーソナリティ障害
- ・ 依存症 (薬物・アルコール依存、買い物依存、ギャンブル依存、ゲーム・ネット依存・摂食障害、リストカット…)
- ・ 適応障害 ・ 睡眠障害 他

特性に合った支援や理解を得られずに大人になった当事者は、さまざまな**トラウマ**や**愛着の問題**を抱え、社会生活がより難しくなっています。

わかってほしい！感覚と認知の違い

・聴覚過敏・視覚優位

…目や耳からの「刺激」を取捨選択してその場にあった対応をすることが難しい。聞こえる音、見えるものの全てを同じレベルで受け取って、その刺激の強い順に反応してしまう

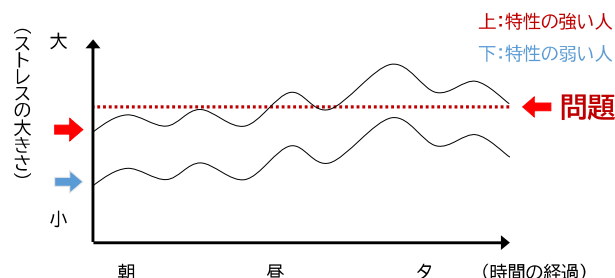
・感覚の過敏さ…味覚・触覚・嗅覚等

・時間の感覚の曖昧さ…その場限りで生きている

やる気がない、いい加減、無視している…
というわけではありません！

わかってほしい！疲れやすさの問題

- ・ストレスに弱い(ガマンできない)のではなく、
もともとストレスがかかっている状態である、ということ。



発達障害について…理解のポイント

- ・わかりにくいことが「障害」となる

Disabilityではなく、**Disorder**

- ・普通に見える(できると思われる)
- ・できる時とできない時がある
- ・できないことを認めたくない(隠してしまう)

認知特性・感覚や思考回路の違いを理解する。
気持ちや意識の問題ではありません！

学生生活の困難

グレーゾーンを含めた
入学時からの支援
見つけて声掛けできる
体制づくり
大学内外の連携

- ・一人暮らしで生活が滅茶苦茶
- ・履修登録ができない
- ・授業やバイトに遅刻する
- ・授業や試験勉強に集中できない
- ・レポートの提出期限が守れない
- ・サークル・ゼミの人間関係がうまくいかない
- ・就職活動のスケジュールが組めない
- ・単位取得や卒論と就活が同時にできない

⇒ 自尊心の低下・うつ病

仕事・バイトでの困難

- ・時間に遅れる・遅刻する
- ・仕事のスケジュール管理ができない
- ・上司の指示が集中して聞けない・忘れてしまう
- ・優先順位・段取りがわからない
- ・些細なミスを繰り返す
- ・仕事の納期が守れない
- ・片づけ・整理ができない・物をなくす
- ・上司・同僚とのコミュニケーションができない

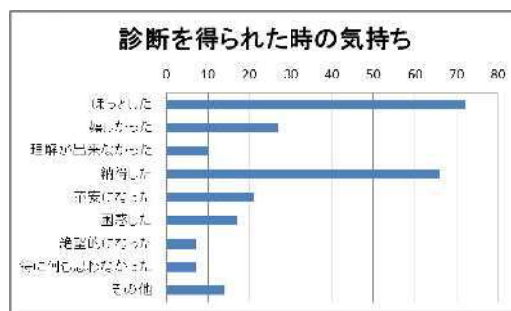
⇒ 転職を繰り返す

大人の発達障害の現状

大人の発達障害の実態調査(H23年度)より

- ・診断されたとき

(回答者数139人)



支援者に分かってほしいこと

- ・**先入観なく、そのままを受け入れる**
… 一人の価値ある人間として
- ・**見え方、聞こえ方、感じ方が違うことを理解する**
… 普通に話しても普通に受け取れません
- ・**うまく伝えるのが難しいことを理解する**
… 話すことをそのまま鵜呑みにしない
- ・**何かをしてもらうより気持ちを分かって欲しい**
… かえって不安を大きくさせる支援者も多い
- ・**家庭の状況や家族の発達凸凹も考慮する**
… 本人だけでなく、家族もフォローが必要

言われてショックな言葉集

気休めの言葉

「普通に見えますよ」
「それぐらい誰でもありますよ」

根拠のない叱咤激励

「頑張れば克服できますよ」
「みんなも頑張ってるんだから」

無理解や一方的な叱責

「できないんじゃないくて、やらないんでしょ」
「どうしてできないの？」

否定や決めつけ

「何が困っているのかわかりません」
「〇〇だから困ってないでしょ」

※それなりに
信頼関係ができれば
多少は大丈夫

Self-Help-Group ～当事者がつながるということ～

セルフヘルプグループ(SHG)とは、共通の生活課題を抱える当事者本人たちによる自己回復・自己受容の場である。

当事者(本人)が、**自主的に**集まり、**主体的に**活動する。

- ・ 障害当事者・親・家族の会
- ・ 慢性疾患・難病を抱える当事者・家族の会
- ・ アディクションの会(AA・AC・SA)
- ・ マイノリティの会(LGBTなど)
- ・ 不登校・ひきこもりの当事者・親の会
- ・ 犯罪被害者・DV・虐待被害者の会
- ・ 遺族の会(グリーフケア) 等

診断から受容まで(広野ゆいの場合)

28歳

診断・治療

「片づけられない女たち」を読む(2000年)

大人のADHDセミナーで仲間と出会う
ネット依存・うつ・疲労骨折・突発性難聴...
全国各地の自助グループに参加

33歳

受容

「関西ほっとサロン」を開始(2002年)

2005年 発達障害者支援法

ピアサポーター養成講座(2006年)

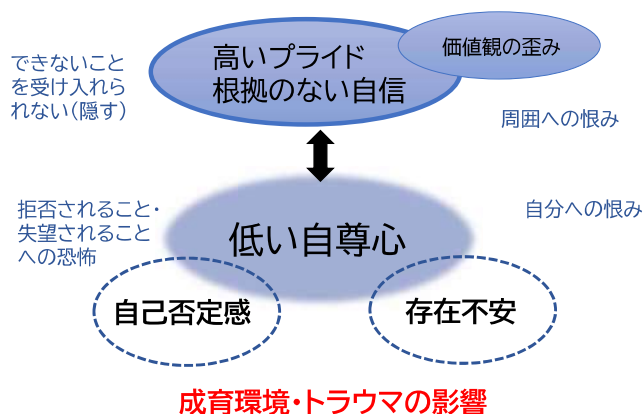
(ひょうごセルフヘルプ支援センター主催)
ピアサポート・障害についての考え方を学ぶ

38歳

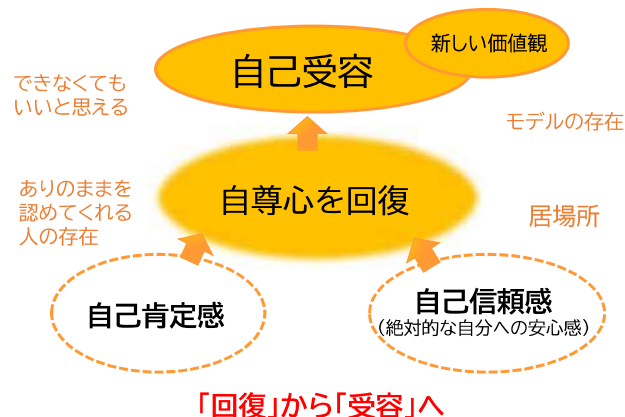
コントロール

「発達障害をもつ大人の会」設立(2008)
(現NPO法人DDAC)

自尊心を育てる …自尊心の低さがストレスを生む



自尊心を育てる …回復と受容



心のエネルギーの4段階



SHG—自己回復と自立を支える「場」

- ・「集団」「組織」より「自分」を大事にしてい…**第3の場所**
- ・自己選択・自己決定が重視される…失敗する権利と自由

あなたは何を言ってもいいし、何をしてもいい
あなたが本当にあなた自身であるならば

※ 安全な場にするための最低限のルールは必要です

合理的配慮を考える

「合理的配慮」

Reasonable accommodation

⇒ 合理的な調整・変更・和解

合理的配慮(reasonable accommodation)とは、**障害者の完全な参加**を可能にするための機会の調整(adjustments)や変更(modifications)の全体を、広義には「合理的配慮」という。
※内閣府HP「アメリカにおける合理的配慮の概念」より

インクルーシブ教育の目的(大前提)

「障害者権利条約」2008

フル・インクルージョン！

- ・「人間の多様性の尊重等の強化」
- ・「障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とする」こと
- ・インクルーシブ教育とは障害児者を排除しない教育であり、**障害児者を排除しないために、障害児者は排除されないために社会全体の力をつける**のがインクルーシブ教育である。

共生社会の実現のためには、学校教育こそ
インクルーシブな環境でなければならない。

インクルーシブ教育は**学校全体の改革**である。ユネスコ・サラマンカ宣言(1994年)

発達障害の「合理的配慮」の例

- 感覚過敏への配慮
ノイズキャンセラー、PCメガネ、サングラス、パーテーション、席の位置の工夫等
- 短期記憶の弱さ・視覚認知の配慮
スケジュールの可視化・共有、メール・メモ等視覚的な伝達方法、グループウェアの導入
- 体調管理への配慮
時短勤務・フレックス制を活用、外部の専門家(医療機関等)と連携
- ミスを防ぐチェック体制
複数でのチェックを徹底する、ミスを容易に見発できるシステムやチェックリストを作成

POINT!!

本人だけではなく周辺の人、さらには
全体がやりやすくなるシステムを作ること！

多様性を受け入れるーダイバーシティマインドー

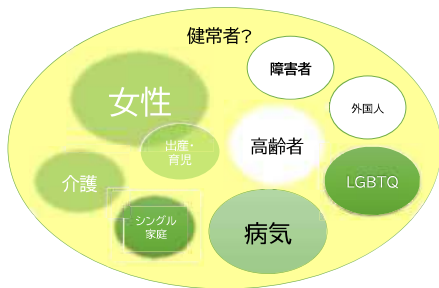
- 相手の発達特性を理解する(**個別対応**が基本)
- こうでなければ…という気持ちを手離す
- 自分と違う特性でも、広い心で受け入れる
- 相手のできないところではなくできるところを探す
⇒ **「ストレングス視点」**をもつこと

POINT!!

「合理的配慮」とは特別扱いするのではなく、
その人が能力を発揮できる環境を作ること！

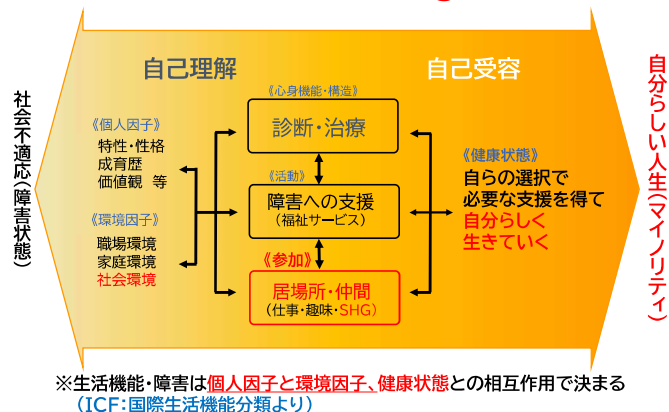
「合理的配慮」を考える

- 合理的配慮が必要なのは障害者だけではない
個別配慮できる環境とは多様性を受容できる環境



誰もがいきいきと活躍できる環境を作っていくことで能力は発揮される

すべての人のWell-being—社会モデルから考える



●大人の発達障害ガイドブック紹介●

『発達凸凹活用マニュアル1・2』

ホームページ「ぴあさぽ De コンサル」
からダウンロードできます。
<http://consul.piasapo.com>

企業・一般向け



●DDACのホームページはこちら●

相談窓口『ハッタツ凸凹相談室』を開設しました！

- 個別相談：発達凸凹に関するあらゆる相談
- 親・家族向けグループ相談会

その他、活動の詳細はWEBサイトをご覧ください。



スライド1

分科会4 困難を抱える発達障がい学生への対応

「医療介入の視点から」
 ～デイケアにおける学生支援～

令和7年3月2日
 滋賀県立精神医療センター 地域生活支援部
 作業療法士 加藤郁子
 看護師 渡部 良子

スライド2

滋賀県立精神医療センターの紹介

- 平成4年9月1日開設
- 外来：精神一般、思春期精神疾患、アルコール依存症の専門外来
- 病棟：1病棟…急性期病棟（思春期の受け入れ）
 2病棟…退院支援病棟・ARP
 3病棟…医療観察法病棟（23床）
- 1・2病棟、病床数50床 男女混合の閉鎖病棟
- 疾患：統合失調症・躁鬱病・摂食障害・発達障害・アルコール依存症
- 精神科救急医療システムの後方支援病院
- デイケアは、同年10月に公設リハビリテーションの役割を担いスタート
- 平成29年4月発達障害専門デイケア併設



スライド3

1. 精神医療センターデイケアの紹介

スライド4

デイサービスとデイケアの違い

- デイサービスとデイケアは、名前は似ているが内容は異なる
- デイサービスは福祉サービス、デイケアは医療
- デイケアは精神科の医療機関に通院中の方が集まり、様々なプログラムを活用し、集団での活動を通して、社会復帰・社会参加をめざしリハビリテーションを行う
- デイケア：6時間 ショートケア：3時間
- 多職種で運営（医師・看護師・精神保健福祉士・公認心理士・作業療法士）

スライド5

精神医療センターデイケアの紹介（1）

【目的】

- ・自己理解、障害理解を深める
- ・経験（成功体験・失敗体験）を積みあげリカバリー力体得する
- ・自己効力感の回復
- ・自己肯定感を回復または育む

スライド6

精神医療センターデイケアの紹介（2）

【特徴】

- 就労・就学（復学）をめざしリハビリテーション
- 利用期間3年と期間を設けている
- 「どんどんやってみよう」をコンセプトとした運営

【デイケア全体のプログラム】

	月	火	水	木	金
AM	作業療法	芸術療法		就労準備プログラム	社会生活力プログラム
PM	音楽療法	リズム体操	発達障害専門プログラム	スポーツ	企画・運営

スライド7

精神医療センターデイケアの紹介(3)

【発達障害専門プログラム】

- 2008年、昭和大学付属烏山病院で自閉症スペクトラム（ASD）、注意欠陥/多動性障害（ADHD）の診断を受けている方を対象に開発されたプログラム
- プログラム目的
 - (ア) お互いの思いや悩みを共有する
 - (イ) 新しいスキルを習得する
 - (ウ) 自己理解を深める
 - (エ) より自分自身にあった「処世術」を身につける
- 対象となる方
 - 発達障害の診断が付いている方
 - 病状の影響を受けることなく、3時間の集団でのプログラムに入れる方
 - 全20回のプログラムに継続的に参加できる方
 - 概ね16歳～39歳

スライド8

発達障害専門プログラム(全20回)

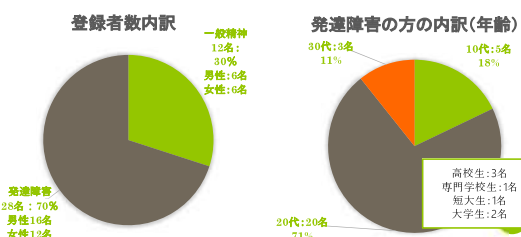
回数	項目
1	自己紹介／コミュニケーションとは
2	挨拶をする／会話を始める
3	会話を続ける
4	会話を終える
5	発達障害とは？
6	表情訓練／相手の気持ちを読む
7	体験学習：「はあつというゲーム」
8	感情コントロール(不安)
9	感情コントロール(怒り)
10	ピア・サポート
11	ストレスについて
12	上手に頼む
13	上手に断る
14	相手への気遣い
15	社会資源
16	アサーション
17	体験学習：「あなたならどのように対応する」
18	自分の特徴を伝える①
19	自分の特徴を伝える②
20	感謝する／ほめる

スライド9

精神医療センターデイケアの紹介(4)

【利用者層】

- 登録者：40名(院内：20名、院外：20名)



スライド10

2. デイケアにおける学生支援の現状

スライド11

デイケアにおける学生支援の現状(1)

【学生Aさん】

- 学生支援室からの紹介

幼少期にADHDの診断がつき、入学時より学生支援室の利用をしていた方がコミュニケーショントレーニングのため学生支援室の職員より紹介

⇒発達障害当事者グループに関心を持たれての利用。自分と似たような経験や悩みごとを抱えている人がいることを知り、自分だけが辛い思いをしているのではないという孤独感が軽減。自分を受け入れてもらえるという安心感から大学以外の居場所として利用を継続。大学生活をメンタル面でサポート。

スライド12

デイケアにおける学生支援の現状(2)

【学生Bさん】

- 診療所・クリニックから紹介

ADHDの診断。二次障害として鬱を発症。大学は休学中。復学をめざしリハビリのため主治医より紹介。

⇒復学をめざし利用。リハビリに取り組む中で、自己理解・特性理解が深まり自分の進路について考え始める。なりたかった職業が発達特性を考えると向いていないと考えるようになり復学を断念。自己決定していく過程でおこる葛藤によりそい、支え続けることで病状としては大きく崩れず。将来への不安は絶えないものの就労をめざし準備、就労へのサポート。

スライド13

デイケアにおける学生支援の現状(3)

【学生Cさん】

○ 地域の支援機関からの紹介

ASDの診断。大学のゼミで対人関係で悩むようになり精神科受診。ASDと鬱の診断がつき休学。昼夜逆転、引きこもりの生活を母親が心配し、地域の発達支援センターへ相談し職員より紹介。

⇒生活リズムの立て直しのため利用。デイケアの活動を通して少しずつ元気になり休学して1年後に復学。大学の授業がない日はデイケアを利用し、心身の健康維持に努めた。「大学を卒業したい。」という強い思いから、学生支援室の職員との連携を希望。学生支援室の職員と連携し、大学卒業までサポート。

スライド14

デイケアにおける学生支援の現状(4)

【学生に共通すること】

- 何らかの傷つき体験、つまずき体験を経験している
- 自己効力感が低く、自己肯定感が育まれていない
- 将来への悲観、ネガティブな感情
- 障害受容はできていないが「何とかしたい」という思い、焦りと不安が強い

【デイケアが大事にしていること】

- 青年期の発達課題ふまえたリハビリと成長の見守り
- ほどよい距離感
- ゆるがない安心感

スライド15

お問い合わせ先

滋賀県立精神医療センター地域生活支援部デイケア
〒525-0072 滋賀県草津市笠山8丁目4-25

TEL 077-567-5011

スライド1

発達障がいの大学生への支援の 現状と今後の可能性

大学保健管理医・精神科医の視点から
京都教育大学保健管理センター 上床輝久

2024年度 第30回 FD・SD フォーラム 龍谷大学 滋賀キャンパス

スライド2

第30回 FD・SD フォーラム COI(利益相反)開示

発表者氏名: 上床 輝久

本演題発表に関連し開示すべきCOI 関係にある企業等はありません

スライド3

本日のトピック

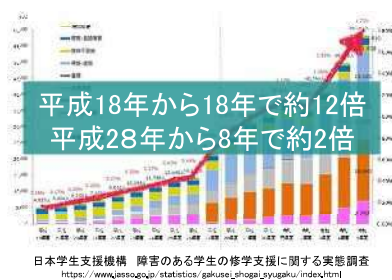
1. 発達障がい学生支援の現在
2. 発達障害とは？
3. 発達障害学生が直面する課題
4. 困難事例となる学生の医療的介入
5. つながりながら支援する意味

スライド4

発達障がい学生支援の現在

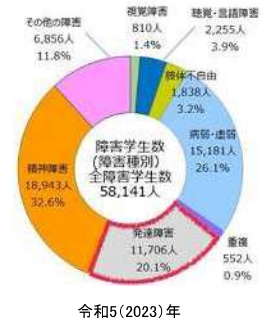
スライド5

障がい学生数の推移

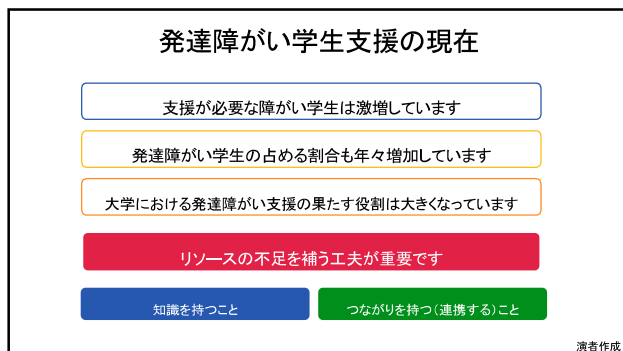


スライド6

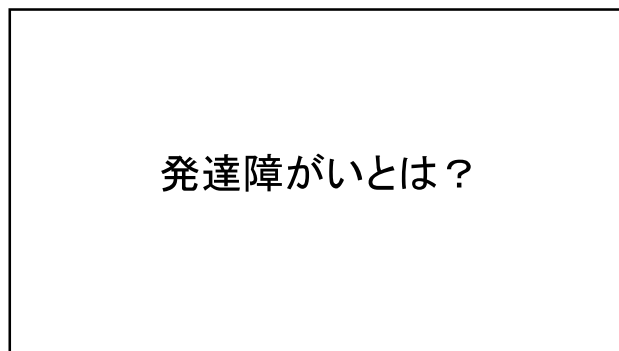
発達障がい学生が占める割合
15.2% から 20.1%へ



スライド7



スライド8



スライド9

「発達障害」と発達障害者支援法

第二条 この法律において「発達障害」とは、**自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害**その他これに類する**脳機能の障害**であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるものをいう。

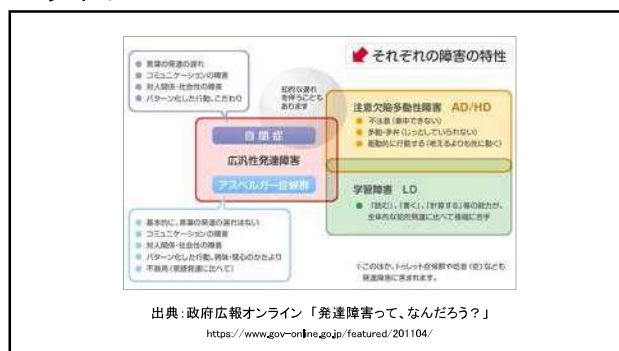
2 この法律において「発達障害者」とは、発達障害がある者であって発達障害及び**社会的障壁**により日常生活又は社会生活に制限を受けるものをいう、(略)

3 この法律において「社会的障壁」とは、発達障害がある者にとって日常生活又は社会生活を営む上で障壁となるような社会における事物、制度、慣行、観念その他一切のものをいう。

4 (略)

平成十六年法律第百六十七号 発達障害者支援法
平成二十八年六月三日公布(平成二十八年法律第六十四号)改正

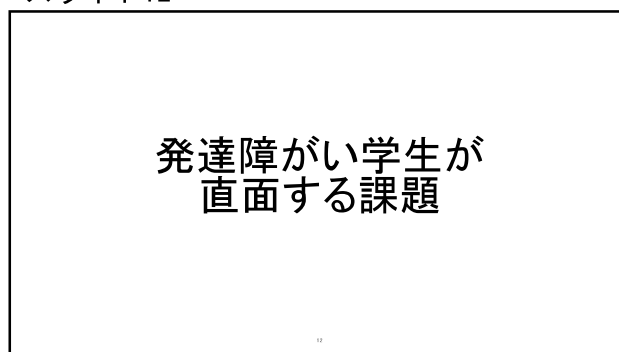
スライド10



スライド11



スライド12



スライド13

事例化する課題の背景にある障がい特性

- ・授業に出られない(起床困難)
- ・遅刻を繰り返してしまう
- ・レポート・課題の提出ができない
- ・授業に集中できない、理解できない
- ・授業中に苦しくて体力がもたない
- ・グループワークの負担が大きい
- ・人前での発表が難しい
- ・対人関係トラブルを繰り返す

- ⇒睡眠関連障害、衝動性、うつ
- ⇒注意、衝動性、マネジメント能力
- ⇒注意、衝動性、マネジメント能力
- ⇒注意、衝動性、マネジメント能力
- ⇒不安、感覚過敏、うつ
- ⇒コミュニケーション、不安、うつ
- ⇒不安、コミュニケーション、うつ
- ⇒社会的、コミュニケーション、衝動性

ADHD特性

ASD特性

ADHD特性・ASD特性に不安症状やうつ症状が重なることにより事例化しやすくなります

演者作成

スライド14

障がい特性に応じた対応の要点

- ・ ADHD特性(隠を隠らす)
 - ・心をこめずに繰り返しマインドする。
 - ・褒めて伸ばす。重要な指導は厳然且つ穏やかに。
 - ・繰り返し失敗を責めない。失敗しない構造を共に考える。

- ・ ASD特性(肅々と慈なく)
 - ・社会性の困難や変化への抵抗(恐怖)を予想する。
 - ・まずは悪気がないことを前提とする。
 - ・遂行機能や運動機能、感覚特性による限界を見極める。

- ・ 二次障害・併存症(手当する)
 - ・起床困難(うつ病、睡眠関連症)
 - ・過呼吸、失神、めまい(不安症、身体疾患)
 - ・やせ、肥満(うつ病、双極症、摂食症)
 - ・対人関係(解離症、パーソナリティ症)

もっと事例を知りたい！

日本学生支援機構 障害のある学生への支援 配慮事例
<https://www.jasso.go.jp/shotokusho/sakusei/shingi/haiyo/line/index.html>

演者作成

スライド15

困難事例となる学生の 医療的介入

スライド16

二次障害・併存症による事例化のメカニズム

- ・ いわゆる「二次障害」
発達障がい特性に様々なストレス環境が重なることにより「自尊心の低下」「外傷体験」などが積み重なり、疾患の原因となる

「難治性の精神疾患の基盤に、見逃されていた発達障害が存在する」という視点から

外在化障害・内在化障害 齋藤万比古先生
 重ね着症候群 衣笠隆幸先生

- ・ Psychopathological Comorbidity (精神的併存症)

「発達障がい特性がある場合、他の精神疾患も生じやすい」エビデンスによる

スライド17

自閉スペクトラム症に併存する精神疾患

不安症 42 - 56%	摂食症 4 - 5%
うつ病 12 - 70%	ADHD 28 - 44%
強迫症 7 - 24%	チック症 14 - 38%
精神病状態 12 - 17%	てんかん 8 - 30%
物質使用症 16%以下	睡眠関連症 50 - 80%

Meng-Chuan Lai, Michael V Lombardo, Simon Baron-Cohen, Lancet 2014

安定した治療環境の上で初めて効果的な支援が可能となります

スライド18

大学保健センターにおける医療的介入

- ・ 精神療法
 - ・支持的精神療法(時に指示的)
 - ・認知行動療法
 - ・生活指導(睡眠・食事・社会生活)
- ・ 薬物療法(医療機関と連携)
 - ・ ADHD治療薬
 - ・ 抗うつ薬、気分安定薬
 - ・ 抗精神病薬、抗不安薬、不眠症治療薬、漢方薬等
- ・ 関係機関との連携
- ・ 学内(教員・職員)状況の共有と、特性に応じた支援・調整の要請
- ・ 医療機関への治療・検査依頼
- ・ 支援機関への紹介、状況の共有と支援の依頼
- ・ 家族への協力依頼、家族の支援、心理教育など

スライド19

つながりながら支援する

スライド20

支援に必要なリソースの整理と分担

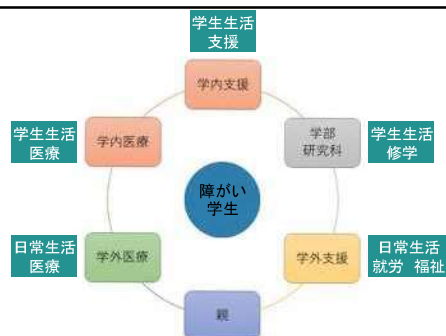
- ・ 障がい学生への対応に必要な支援
- ・ 教科指導および教育的配慮(教育)
- ・ 学生生活(家族、友人、サークル等)
- ・ 進路(キャリア・就職・就労)
- ・ 合理的配慮(障害者支援、大学運営)
- ・ 治療(医療・福祉)
- ・ 卒後の支援(医療・行政・福祉)

一人で支援するのは超大変です

分担して連携すれば楽になります

連携可能な体制が出来上がると
困難事例にも対応可能となります

スライド21



スライド22

本日のまとめ

- ・ 支援を求める学生は激増しており、人手が足りません。知識と連携が必須です。
- ・ 「発達障害」は行政用語。それぞれの障害ごとの特性に注目しましょう。
- ・ 困難事例となる学生では、二次障害・併存症の治療が必要な場合も多くなります。
- ・ 発達障がい学生の支援は1人ではできません。関係者が連携して取り組みましょう。



スライド1

困難を抱える発達障がい学生
への対応
～就労支援の視点から～

en+courage
窪 貴志

Copyright en+courage Co., LTD. All Rights Reserved

スライド2

株式会社
エンカレッジ
en+courage

【在学中の就活準備支援】
発達障がいやコミュニケーションが
苦手な学生の就活準備プロジェクト
(大阪、京都、東京、愛知)
【在学中の就職活動支援】
障がい学生のための就活・
求人サイト
【卒業後の就職活動支援】
【発達障がいに特化した
就労移行支援事業所】
(京都、大阪、東京、横浜に計7拠点)
en+courage
【自立訓練事業所】
→就労に際して、もう少し
準備が必要な方向け
doors 2

学生向け
家でも就活
オンライン
カレッジ

その他
家でも就活オンライン カレッジ(教職員向け研修・コミュニティ)⇒全国54校が参画
大学内での就活ガイダンス/しごとの疑似体験
企業向けの障がい者雇用コンサルティング

Copyright en+courage Co., LTD. All Rights Reserved

スライド3

障がいのある生徒・学生にまつわる3つの数字(過去⇒現在)

約10年前	現在	
6.5% (2012年)	8.8% (2022年)	全国の公立小中学校における 発達障がいの可能性のある児 童生徒の割合 ～文部科学省調査～
1.34万人 (2013年)	5.81万人 (2023年)	大学、短期大学及び高等専門 学校における障がい学生数 (全学生の1.79%) ～日本学生支援機構調査～
0.24万人 (2013年)	1.17万人 (2023年)	大学、短期大学及び高等専門 学校における発達障がい学生 数 ～日本学生支援機構調査～

Copyright en+courage Co., LTD. All Rights Reserved

スライド4

企業の障がい者雇用に関する3つの数字(過去⇒現在)

約10年前	現在	
1.8% (2012年)	2.5% (2024年)	民間企業における 法定雇用率 (2026年には2.7%)
38.3万人 (2012年)	67.8万人 (2024年)	民間企業で働く雇用障がい者数 ～厚生労働省調査～
1.7万人 (2012年)	15.1万人 (2024年)	民間企業で働く雇用障がい者数 (精神障がい※発達障がい含 む) ～厚生労働省調査～

Copyright en+courage Co., LTD. All Rights Reserved

スライド5

発達障がいのある学生の進路

発達障がいのある学生の進路は多様化している

学生

新卒総合職

アルバイト
雇用

新卒派遣

在宅
フリーランス

新卒障がい者
雇用枠

就労移行支援

就労継続支援
A型、B型

障がい者雇用枠
就労

Copyright en+courage Co., LTD. All Rights Reserved

スライド6

より自分に合った働き方を実現するための進路選択

それぞれの選択肢に、「いい・悪い」はない
自分の現状に照らし合わせて選択することが重要。

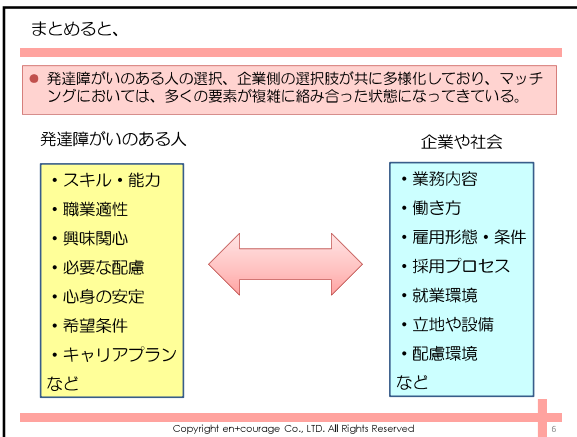
【一般雇用】
・待遇は良いし、
キャリアは豊富
・配慮がなく
定着率は低い

【障がい者雇用】
・配慮を受けられ、
定着率は高いが、
職種は限定的

より自分に合った働き方の実現

Copyright en+courage Co., LTD. All Rights Reserved

スライド7



スライド8

今後、起こり得る変化：発達障がいのある人

- 人数規模は、さらに増加する
 - 発達障がいの生徒の数の増加
 - 欧米の発達障がいのある学生数等 も参考に。
- 発達障がいのある人を取り巻く環境変化による影響
 - 例) 教育の変化 (GIGAスクール) ⇒LDの増加
 - 例) 企業の変化 (コミュニケーション/マルチタスク) ⇒ASDの困り感
- 多様な生きづらさや困り感への焦点が当たる
 - 手帳や診断の有無を問わない生きづらさ (例) グレーゾーン
 - 生活環境、家庭環境、メンタルヘルスなど

Copyright encourage Co., LTD. All Rights Reserved 7

スライド9

今後、起こり得る変化：企業や社会

- 障がい者雇用率のさらなる上昇
 - 2026年：2.7%。その先も見据えて。
- 労働条件や環境の変化
 - 最低賃金の上昇
 - 働き方の多様化 (在宅勤務、フリーランス)
- DX化やAIの活用による業務内容の変化
 - チャットを始めとした文字でのコミュニケーション
 - 業務の自動化に向けた作業の増加
 - (上記の結果として) 繰り返し作業、補助的な業務の減少
- 障がい者雇用の人数や率だけではなく、中身 (＝質) が問われる
 - 戦力としての障がい者
 - 育成型の障がい者雇用
 - ダイバーシティ&インクルージョンの国際的な潮流
 - 一方で、職場分離型の障がい者雇用も増加

Copyright encourage Co., LTD. All Rights Reserved 8

スライド10

考えておきたい3つのトピックス

- ①「得意」や「出来る」を活かす視点を持つ
- ②自分に合った職場で働くための準備を行う
- ③企業側：発達障がいのある人と働く際の職場作り

Copyright encourage Co., LTD. All Rights Reserved 9

スライド11

まとめにかえて

- 発達障がいのある人の選択、企業側の選択肢が共に多様化してきており、マッチングにおいては、多くの要素が複雑に絡み合います。
- さらに、社会環境が変化する中で、「〇〇をしておけばうまくいく」、「〇〇の仕事が良い」という一般論が通じにくくなっている。その中で変わらざる大切なこともあります。
 - ・「得意」や「出来る」を活かす視点を持つ
 - ・自分に合った職場で働くための準備を行う
- 一方で、障がい社会との掛け算で生まれることを考えれば、社会側での取組も必要になります。障がいの有無に関係なく、誰しもが働きやすい職場作りが、結果として、発達障がいのある人の働きやすさにもつながっていくのではないのでしょうか。

Copyright encourage Co., LTD. All Rights Reserved 10

スライド12

スライド1

発達障がい者の今後の可能性 ～今後の学生のメンタルヘルス向上

龍谷大学短期大学部
須賀英道

スライド2

利益相反 (COI) 開示

発表に関連し、共和薬品工業株式会社から後援を頂いております

スライド3

よく聞かれる学生支援室での疑問

1. 生活リズムが崩れ、不安や、自律神経症状が出ている学生にどのように対処したらいいのか？メンタルの医療機関を勧めるのか？
2. 欠席や休学者へのカウンセリングを行っているが、学生は利用しないし、来ても話することがないという。どう対処したらいいのか？
3. 留年が続く学生にどう対処し、卒業させるのか？
4. 大学生のメンタル不調に早期に気づくには？

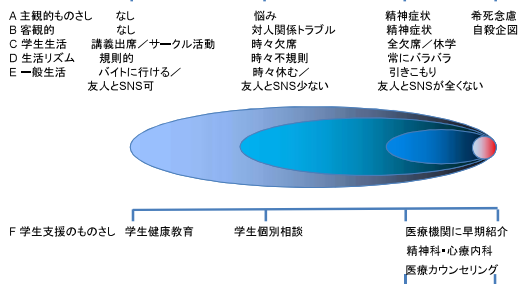
スライド4

別のレベルでの疑問

1. 希死念慮をもつ学生に命の危険があると大学が判断した場合家族に伝えていいのか？本人が嫌だと言っているのに。保護者に引き渡すべきなのか？
2. 発達障害含め心療内科の選び方

スライド5

ものさしによるレベル評価(多次元評価)



スライド6

最近の学生が元気ないのは？

- ①孤独感への過剰な心配・不安
- ②危険を避け他者との同一性を求めることによる
- ③コミュニケーション力の低さ
- ④人間関係の希薄性
- ⑤学生生活にリスクマネジメント(ネガティブ)指向
- ⑥チャレンジ精神の低さ
- ⑦自主性・好奇心の欠如

スライド7

原因は？

- 1) 地域コミュニケーションの崩壊
 - 2) 核家族化
 - 3) 情報化社会の急速変化
 - 4) 生活習慣の乱れ
 - 5) 親の養育態度変化
- など

スライド8

地域コミュニケーションの崩壊、核家族化
 情報化社会の急速変化、生活習慣の乱れ
 親の養育態度変化
 ↓
 自立(アイデンティティ確立)の阻害
 コミュニケーション力の低下→他者との協調性低下
 ↓
 ストレスへの脆弱性、過緊張、ネガティブ指向
 自尊心・自己肯定感の未熟
 ↓
 うつ
 トリガーとなる出来事による行動化
 爆発的行動(自殺)、回避的行動(引きこもり)

スライド9

こうした学生をどうやって成長させるか？

- ・原因・問題点は限りなく多い
 問題の解決は確かに必要
 しかし、原因・問題点の解決には時間・労力が著しく、
 すべての解決は不可能
- ・どうするか？
 発想の転換
 POS (problem orientated system)
 ↓
 WOS (wellness orientated system)
 GOS (goal orientated system)

スライド10

この表現は何が違うのか？

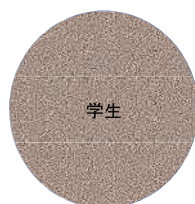
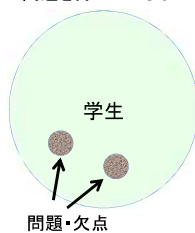
- 1) 発達障がい者
- 2) 発達障がいをもつ人

スライド11

「問題・欠点」の捉え方

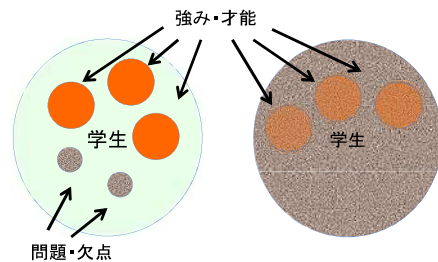
問題を持っている学生

問題のある学生



スライド12

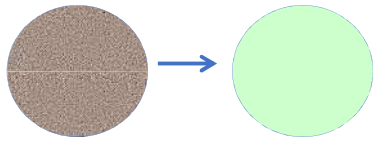
「問題・欠点」の捉え方



スライド13

問題・欠点をみる立場

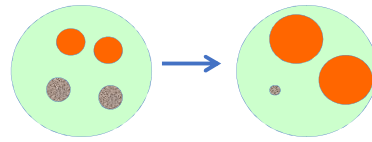
教育者が指導によって学生の問題点・欠点を解決する



スライド14

人をみる立場

教育者のアドバイスによって学生が成長し
問題点・欠点が少なくなっていく



スライド15

教育者は木を見て森を見ずになりやすい

- 教育者の態度
 - 1 問題点・原因の究明と解決法模索
 - 2 早期発見
 - 3 困難ケースの指導と解決の喜び

「問題・欠点」を見て「人」を見ず！

医療者も同様 「症状」を診て「人」を見ず

スライド16

パソジェネシス pathogenesis	サルウトジェネシス Salutogenesis (Aaron Antonovsky, Israel)
• 病因追及論 • なぜ、病気になるのか • 問題解決思考 原因の除去 (POS:problem orientated system)	• 健康創生論 • どうしたら、健康になれるか • 人生への資源(リソース)の活用 (WOS:wellness orientated system)

(須賀, 2016)

スライド17

Z世代をウェルビーイング視点で見ると

- Z世代に感じる彼らの良い点
 - 過去の若者に比してZ世代のどこが良いのかという視点評価ではない
 - 現代社会の中で彼らがいかにかうまく適応できているかというサリュートジェネシス視点
- 1) 情報化社会への適応
インターネットが整備 環境での成長
情報量の増加、情報元の多様化、様々な媒体によってアクセスも可能
発信源はマスメディアなどの専門業者に限定されず、FacebookやTwitter、Instagramなど一般人からの自由な発信、相互の情報交換が積極的
情報への絶対的信用性を常に求めるといった姿勢は低くなった
環境に飛び交う情報への価値評価そのものが絶対性から便宜性に変わっている
- SNS環境の整備
SNS情報の中での、若者の食を中心とした健康意識の向上
健康意識に疎いことや生活状況の不真面目さに、美意識(かっこよさ) がなくなり、健康意識を持つことに優位性、真面目の肯定

スライド18

- 2) ダイバシティの見方の敷衍
絶対的価値観からさまざまなものさしによる価値評価
生存社会のボーダレス化と多文化共生を求めて、マイノリティ評価
例) 性別の区分 男と女以外に、LGBTといった中間層
評価も障害者という評価から正常範疇にシフト
LGBTからSOGI (Sexual Orientation & Gender Identity) への変化
- 3) ものへの価値感の低下 ことへの価値観へ
高級車に乗り、高級な衣食住な生活を送ることによって幸福感が得られる
といった解釈はなくなり、自分の特性に相応な生活に満足する方向性
インターネット情報が無料でいつでも得られるという環境がその背景
高給取りへの指向性は下がり、無理せず、レジャーを楽しむ、
程々の日常生活を送るといったことに満足感を求める
これが様々なことへのモチベーションの低下でなく、
ウェルビーイング指向性の現れ

スライド19

Z世代へのサリュートジェネシス視点

サリュートジェネシス視点から良い点を見る
最近の若者が変貌していく情報化社会の環境に適応し、
価値観や人生観をも多様化させている
従来の価値観や人生観による視点から見ると抱える問題が限りなくあるが、
サリュートジェネシス視点によるウェルビーイング思考で捉えると、状況は異なることがわかる

スライド20

教育でのwell-being実践プログラムの試み

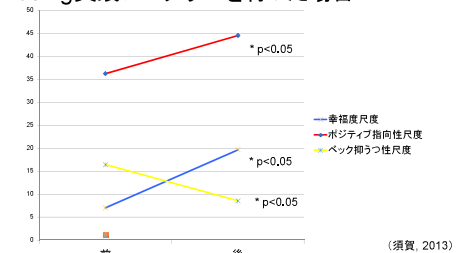
スライド21

well-being実践プログラム施行による 学生の幸福度の変化

- 対象
龍谷大学短期大学部学生50名
A群25名 平常授業実施
B群25名 実践プログラムを3回実施
- 方法
H25年11月から授業の中で3回の実践プログラム施行
初回と終了後に評価尺度を測定
- 評価尺度
幸福度スケール(10段階 1-10)
人生満足度SWLS(satisfaction with life scale) Dinner, 2003
協調的幸福感尺度、抑うつ感(BDI)
- A群とB群の結果を比較考察

スライド22

B群の結果 well-being実践プログラムを行った場合



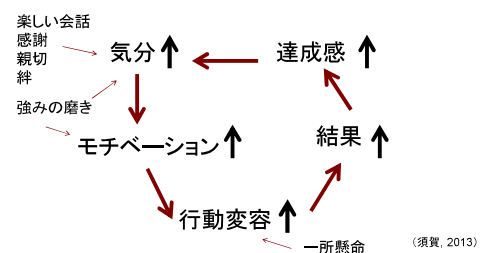
スライド23

5つのウェルビーイング手法の紹介 Well-being実践プログラム(須賀, 2019)から引用

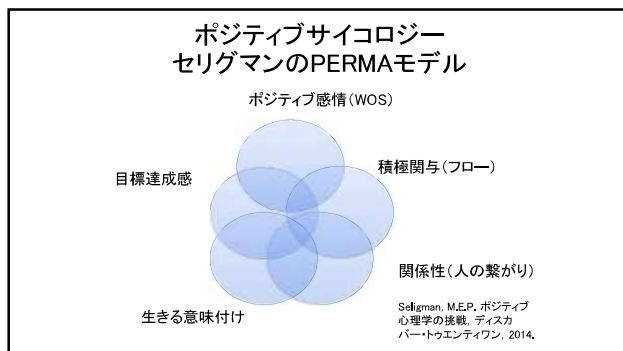
1. 自分の強みに気づき伸ばす
2. 目標を決めて行動し、達成感を得る
3. 感謝と親切を重ねる
4. 自己肯定し、自分の成長に気づく
5. 日常会話を楽しくする(ワクワク会話)

スライド24

気分・意欲の向上メカニズム



スライド25



スライド26

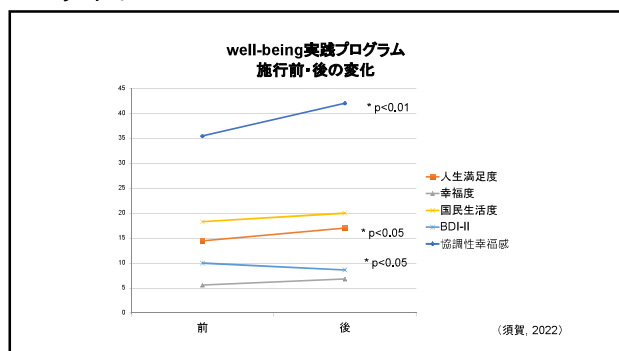
臨床応用へ

スライド27

well-being実践プログラムによる セミナーの効果

- well-being実践プログラムによるセミナーに参加した方のうち本調査にエントリーした112名
- 対象患者
うつ病、不安症、メンタル不調、ADHD
- 評価尺度
人生満足度、幸福度、生活満足度、協調的好感度抑うつ感 (BDI-II)
well-being実践プログラムの実践前、後によるアンケート調査

スライド28



スライド29

セミナーでの well-being実践プログラム(須賀)の テーマと概要

週1回、5回を1クール

	実施日	テーマ	概要
#1	1日目	ウェルビーイング思考に気づく	物の見方を従来のPOS (Problem Oriented System) から、WOS (Wellness Oriented System) に変えると視野が広がり、状況改善、気分向上につながる
#2	2日目	目標を決めて行動し達成感を得る	自分の一所懸命になれる具体的なことに気づき重視する

スライド30

well-being実践プログラムの テーマと概要

	実施日	テーマ	概要
#3	3日目	感謝をする	感謝をすることで気分が向上することを知り実践する
#4	4日目	自分の強みに気づき伸ばす	自分の強みに気づき、具体化された強みを重視
#5	5日目	笑顔が自然に出るワクワク会話をする	身近なコミュニケーションの中にポジティブ指向となる資源が多く、笑顔の自然に出る日常会話を実践する

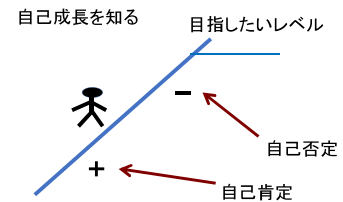
スライド31

参画型で well-being実践プログラムを施行

- ・ 情報提供方式ではなく、参画型とする
- ・ 2人ペアの会話形式で進行
細かいテーマを頻回に提供し、2人ペアで会話
- ・ 結論提供より参加者の思考、気づき、言語化を最優先
- ・ 会話を常に継続することから、前頭機能活性化
- ・ 明るい雰囲気、会話相手の良いところに気づくことを原点に(ほめる)
- ・ セミナーでは、自分の意見を表出できる
このことは主役になれる⇒
モチベーションを高める⇒
興味・関心の向上

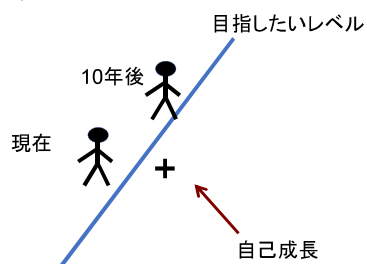
スライド32

ウェルビーイング手法によって自己肯定へ



スライド33

自己成長を知る



スライド34

コミュニケーション意識からみた
抱える問題点のとらえかた

問題点を視点とした会話
つらくなっていく

人を視点とした会話
楽しくさせる

